

## EUSI メールマガジン Vol. 039

### 「スコピエ 2014」に見るナショナル・アイデンティティと記憶の問題」(EUSI スカラシップ報告)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【2013年度 EUSI スカラシップ報告 No. 2】

##### 「スコピエ 2014」に見るナショナル・アイデンティティと記憶の問題」

上神弥生 (津田塾大学大学院 文学研究科イギリス文学専攻 後期博士課程)

マケドニア共和国の人文系の研究者たちで組織される CCCS (Center for Culture and Cultural Studies) の学会に参加するため、スコピエを訪れた。各国から集った研究者たちが「文化の記憶」をテーマに、三日間にわたり研究発表を行った。参加の目的は、現地の研究者たちの中で「バルカニズム批評」が、いかなる位置づけにあるか探ることであった。

「バルカニズム」とは、文学研究における批評の方法論のひとつだ。「ヨーロッパの火薬庫」や「バルカン化」という表現に見られるように、この地域は西欧の眼差しを通して野蛮や衝突、後進性といったイメージで語られてきた。このような一枚岩的で否定的なイメージが形成された過程を言説のレベルで分析したのが、バルカニズム批評だ。旧ユーゴスラヴィアが戦渦にあった90年代、マリア・トドロヴァなどの研究者たちによって、先駆的な著作が相次いで発表された。近年、南東欧各国が欧州連合(EU)への加盟を目指す動きを受け、英米の文学研究者たちから再び注目を集めつつある。

この批評の主な関心は西欧の視線を通して作り上げられてきた「バルカン」表象にあり、その意義は、様々な民族・文化・宗教が共生する地域を一枚岩的に映し出すアイデンティティ・ポリティクス解体にあったと言える。しかし、いかに民族や国家が集合体としてのアイデンティティを打ち出すかという方向に、議論の中心は移りつつあるようだ。

例えば、70年代からのグラゴール文字の復権がクロアチア性の構築に果たした役割を論じた研究があった。グラゴール文字は古代スラヴ語に用いられていたが、後にセルビア語で用いるキリル文字に取って代わられた。学会が開かれる4ヶ月ほど前、公共施設でのキリル文字並列表記を進めるクロアチア政府に対し、首都ザグレブで大規模な抗議デモがあった。EUの求める少数派保護政策に応じて、国内の少数派セルビア人の人権配慮として進められた政策だったが、紛争の記憶を持つクロアチアの人々からは、いまだにキリル文字に対する強い反発があるようだ。

集合体のアイデンティティの問題は、過去をどう記憶するかという問題と分ちがたく結びついている。この問題が凝縮されるように展開しているのが、開催地のスコピエであった。マケドニア共和国はEU加盟候補のひとつだが、「国名問題」などによる対ギリ

シャ関係の悪化が足枷となり長らく足踏み状態にある。

これに拍車をかけているのが、「スコピエ 2014」という政府主導の再開発計画だ。政策の不透明性や大幅な予算の超過から、たびたび市民による抗議デモが行われてきた。この計画により「ポルタ・マケドニア」という凱旋門が建てられ、公共建造物のファサードが次々と新古典主義やバロック様式に改修されている。オスマン・トルコ時代の面影を残す旧市街と、建物がクラシックに改装された新市街地を結ぶストーン・ブリッジという橋があるが、橋の手前で南北の景色を眺めているとディズニーランドにでもいるような気分になる。

マケドニア広場にある GTC モールも改修の対象とされているが、社会主義時代のモダニズム建築の歴史的意義を訴える建築家や市民によって強い反発を受けている。特に驚いたのは、新たに建てられた夥しい数のモニュメントだ。古代から近代までマケドニア共和国に縁があるとされる歴史的人物の石像がずらっと並んでいた。スラヴ系以外の民族の石像が圧倒的に少ないことや、アレキサンダー大王の像が含まれていることから国内外で評判が悪い。

新たな公共施設も次々に建設された。

2008年に開館した「マケドニアの闘争の博物館」もその一つだ(ギリシャのマケドニア地方にあるテッサロニキに、1893年に建てられた同名の博物館がある)。オスマン帝国からの解放とユーゴスラビアからの独立までの闘争の歴史が展示されているが、その大部分が「英雄」たちの蠟人形と陰惨な油彩画で構成されていた。

特に目を引いたのが、トルコの兵隊による残虐行為が描かれた巨大な油絵の数々であった。学会で、スロヴェニア民話に登場する怪物のようなトルコ人像が、いかにイデオロギーとして機能したか論じた研究発表を聞いたが、最近建てられたばかりの博物館で目にするとは思ってもよらなかった。

このような博物館がトルコ系の人々が多く暮らす旧市街の目の前に建設されたことにも、当惑を禁じえない思いであった。

国際的に注目を集めたのが「マケドニアのユダヤ人のホロコースト・メモリアル・センター」だ。

1943年、約7000人のユダヤ人がスコピエからトレブリンカ収容所へ送られた。2010年頃から、この負の歴史を継承しようとする様々な動きが見られ、センターの設立はその一つと言える。2011年には「マケドニアからのユダヤ人とホロコースト」と題された国際的な研究プロジェクトが本として出版された。翌年には、この悲劇を描いた『サード・ハーフ』(The Third Half)という映画が制作された。

「スコピエ 2014」では、政治的な取捨選択を通して記憶の作業が進められている。オスマン・トルコの支配が残したムスリムの遺産や社会主義時代の歴史を覆い隠すかのように景観を作り変える動きには、ナショナル・アイデンティティを更新しようとする、この国のジレンマが見てとれる。また、ここ数年で一気に取り組みされたホロコースト関連のプロジェクトには、記憶の継承という意義とは別に、西欧と負の遺産を共有することを「ヨーロッパ」へ仲間入りするための試金石とみなす意図が少なからず働いているように見える。

滞在中、道に迷った筆者のためにアルバニア系の女性が目的地へ向かうバスが来るまで一緒に待ってくれたことがあった。バスの扉が閉まる瞬間、マケドニア語で「ブラゴダラム(ありがとう)」と叫ぶと、それを見ていたスラヴ系の老紳士に「彼女はアルバニア系だから『ブラゴダラム』ではないのだよ」と注意された。他者の言葉に対する自分の無神経を指摘され、「マケドニア語の

会話表現をいくつか覚えれば、あとは英語で十分だろう」などと思っていたことが恥ずかしくてならなかった。だが、アルバニア人女性のホスピタリティと、他者に敬意をはらおうとする老紳士の姿勢にこそ、この国のアイデンティティを見つけたような気がした。

(EUSI スカラシップについてはこちら)

[http://eusi.jp/content\\_jp/education/scholarship/](http://eusi.jp/content_jp/education/scholarship/)

## 【EUSI イベントご案内】

### 1. EUSI-NECA 国際シンポジウム

「サイバーセキュリティ: 制御システムセキュリティへの日欧戦略的協同」

日時: 2014年2月5日(水) 13:00-17:30

会場: 津田ホール (JR 千駄ヶ谷駅徒歩2分)

言語: 日本語及び英語 (同時通訳付)

参加費: 無料

主催: EUSI, 一般社団法人 日本電気制御機器工業会 (NECA)

後援: 駐日欧州連合代表部, 日本経済団体連合会, 経済同友会,

制御システムセキュリティ関連団体合同委員会 (9 団体)

技術研究組合制御システムセキュリティセンター (CSSC)

[http://eusi.jp/content\\_jp/outreach/seminar/20140205\\_symposium-2.html](http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20140205_symposium-2.html)

### 2. EUSI シンポジウム「国際的政治アクターとして EU」

日時: 2014年2月11日(火) 13:00-17:30

場所: 一橋大学 佐野書院 (国立市中 2-17-35)

言語: 英語

参加: 無料・事前登録不要・参加自由

司会: 川崎恭治 (EUSI 所長)

13:10-14:25 クリストフ・ヘアマン (パッサウ大学教授)

「野望と現実の間にある EU 対外政策」

14:50-15:30 原圭一 (外務省欧州局政策課課長)

「安全保障分野を含む最近の日 EU 関係」(仮)

15:30-16:10 中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授)

「外交安全保障上級代表の権限と EEAS」

16:30-17:30 パネルディスカッション (参加者全員)

[http://eusi.jp/content\\_jp/outreach/seminar/20140211\\_symposium.html](http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20140211_symposium.html)

### 3. 国際経済シンポジウム「EU-Japan, New Strategic Partnership for Future」

日時: 2014年2月27日(木) 18:30-20:15

場所: 如水会館 スターホール (東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1-1)

主催: EUSI, HEC Paris, クレディ・アグリコル銀行

後援: 一橋大学 ICS, EBC

言語: 日英同時通訳

申込: 以下、EUSI HP をご参照ください

[http://eusi.jp/content\\_jp/outreach/seminar/20140227eu\\_japan\\_spa.html](http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20140227eu_japan_spa.html)

4. ICCEES(国際中欧・東欧学会)より、Call for Paper の募集が届いています。

第9回 ICCEES 世界大会 (幕張: 2015年8月3-8日開催)

「MAKUHARI -- Where Many Easts meet Many Wests」

パネル・ラウンドテーブル・個人報告申込 (締切: 2014年5月31日)

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/iccees2015/index.html>

ICCEES (国際中欧・東欧学会) の世界大会、幕張での2000人規模の国際会議「MAKUHARI -- Where Many Easts meet Many Wests」が、1年半後に近付いてまいりました。

今回は、特に大家や中堅のみならず、若手、院生の応募を encourage する国際会議でもあります。また、中国・韓国・ASEAN・西アジアなどアジアと欧州、アメリカ・ラテンアメリカなどとの共同を、意識的に呼びかける会議でもあります。ぜひ皆様の積極的な Proposal をどうぞよろしくお願いいたします。文学、文化、芸術、宗教、音楽、歴史、政治、経済、比較、ジェンダーなど人文社会科学のあらゆる分野が関係します。

皆様の積極的アプライを是非どうぞよろしくお願いいたします。

第9回 ICCEES 世界大会組織委員会

組織委員長: 下斗米伸夫 (法政大学)・沼野充義 (東京大学)

副委員長: 羽場久美子 (青山学院大学)

事務局長: 松里公孝 (北海道大学)

<https://c-linkage.com/iccees2015/>

**【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】**

中西優美子 (EUSI 執行委員・一橋大学大学院法学研究科教授)

「対外関係における EU の一体性と誠実協力・連帯義務 法的観点からの一考察」

『一橋法学』第12巻第3号 (2013年11月) 895-928頁

中西優美子 (EUSI 執行委員・一橋大学大学院法学研究科教授)

「国内憲法裁判所判決に反する国内最高裁判所による EU 司法裁判所への付託と

先決裁定 (I(2))『EU 法における先決裁定手続に関する研究 (3)』

『自治研究』第90巻第1号 (2014年1月) 64-74頁

林秀毅 (EUSI 主任研究員・日本経済研究センター特任研究員)

「ユーロ再下落のタイミングを読む--春先にも「1.3ドル・130円」割り込む方向」

『欧州経済・金融レポート』(日本経済研究センター)(2014年1月14日)

<http://www.jcer.or.jp/column/hayashi2/index581.html>

林秀毅 (EUSI 主任研究員・一橋大学国際・公共政策大学院客員教授)

「開発支援にどう取り組むか」

『日本経済新聞』十字路 (2014年1月15日夕刊)

EU のアフリカ支援策を紹介し、日本の開発支援のあり方を検討している。

**【EU に関するニュース】**

2013年12月2日 EU 理事会、中国製太陽光パネルに対する反ダンピング・補助金への最終措置を承認

- 2013年12月2日 欧州国境監視システム(EUROSUR)開始。人身売買・麻薬密輸など国境を越えた犯罪防止強化へ
- 2013年12月2日 バロゾ委員長、ヤヌコビッチ・ウクライナ大統領と電話会談。同国のデモ鎮圧問題を協議
- 2013年12月3日 EU理事会、研究イノベーション計画「HORIZON 2020」採択。2014-20年度で800億ユーロ規模
- 2013年12月3日 EU理事会、従来の生涯教育やエラスムス・ムンドゥスなどを統合した「エラスムス+」採択
- 2013年12月4日 欧州委員会、金利派生商品業界のカルテル参加銀行8行に総額17.1億ユーロの制裁金命令
- 2013年12月5日 ファン＝ロンパイ議長・バロゾ委員長、マンデラ氏逝去に対する哀悼の共同声明発表
- 2013年12月5日 ECB理事会、来年のインフレ率予想を下方修正。ドラギ総裁、低水準政策金利維持を主張
- 2013年12月5-6日 欧州安全保障協力機構(OSCE)外相理事会、サイバー空間での信頼醸成措置に関する決議
- 2013年12月7日 バロゾ委員長、第9回WTO閣僚会議(MC9)のバリ・パッケージ合意に対し歓迎声明
- 2013年12月8日 バロゾ委員長、ヤヌコビッチ・ウクライナ大統領と電話会談。政治的緊張の平和解決を求め
- 2013年12月9日 欧州航空安全機関(EASA)、航空機内の電子機器使用制限の指針改訂、機内で常時使用可能に
- 2013年12月9日 EU理事会、ロマ人(ジプシー)の経済・社会的統合強化への欧州委員会勧告を満場一致で採択
- 2013年12月10日 EU経済・財務理事会、銀行救済・破綻処理枠組やポーランド・仏・蘭などの財政改革検証
- 2013年12月10日 アシュトンEU上級代表、国際人権デーに寄せ、EUの人権問題の取組や普遍性に関する声明
- 2013年12月10日 欧州議会、乱獲対策や海洋投棄禁止を含む共通漁業政策(CFP)改革を承認。2014年より施行
- 2013年12月10日 ファン＝ロンパイ議長・バロゾ委員長、マンデラ氏追悼式参列
- 2013年12月11日 アシュトンと欧州委員会、域外紛争や危機に対するEUの包括的対策に関する政策文書採択
- 2013年12月11日 EU、研究イノベーション計画「HORIZON 2020」公募開始。2014-15年度で15億ユーロ分助成
- 2013年12月11日 欧州委員会、「HORIZON 2020」の一環でキュリー夫人名を冠した「MSCA」研究助成公募開始
- 2013年12月11日 アシュトンEU上級代表、ウクライナのデモに対する感銘と当局の武力による排除を非難
- 2013年12月12日 欧州委員会、EU教育・訓練・青少年・スポーツの新規計画である「エラスムス+」手引発表
- 2013年12月12日 アシュトンEU上級代表、日本政府の2名の死刑執行への遺憾と死刑制度見直し喚起の声明
- 2013年12月13日 アシュトンEU上級代表、過激化するタイ反政府デモを受け全当事者の平和的解決を求める声明
- 2013年12月13日 アイルランド、欧州委員会・ECB・IMFトロイカによる金融支援プログラムを終了
- 2013年12月16日 EU理事会、EU市民保護新メカニズム採択。災害予防強化や欧州緊急対応能力(EERC)創設など
- 2013年12月16日 EU理事会、ECB銀行監督委員会の初代委員長に仏中銀ダニエル・ヌイ女史を任命する決定
- 2013年12月16日 EU理事会、原子力研究のためのEURATOM計画(2014-18年度)を採択。「HORIZON 2020」の一環
- 2013年12月16-20日 環大西洋貿易投資連携協定(TTIP)第2回交渉、ワシントンで開催。関税や農産品など協議
- 2013年12月17日 欧州委員会、欧州研究会議(ERC)新理事長に、仏数学者のJ・P・ブルギニョン教授を任命
- 2013年12月17日 第3次メルケル大連立政権が発足。バロゾ委員長、祝意の声明発表
- 2013年12月18日 EU財務相理事会、銀行の単一破綻処理機関と単一基金創設に関する今後の手続を決定
- 2013年12月18日 欧州委員会、動物福祉や倫理に則し、クローン動物とノベルフード(新規食品)の3法案採択

- 2013年12月18日 欧州委員会、大気汚染対策のための一連の政策採択。空気浄化や有害物質排出上限設定など
- 2013年12月18日 欧州委員会、スペインのプロサッカーチームへの公的支援がEU内国家支援規則に適正か調査
- 2013年12月18日 マルムストロム内務担当欧州委員、イランペドゥーサ島での非人道的移民対応に非難の声明
- 2013年12月18日 スイス、EUの全地球航法衛星システム GALILEO 及び EGNOS に参加する協力協定に調印
- 2013年12月19日 EU、ブラジルに対して、国内企業優遇税制に関するWTOの紛争解決協議に応じるよう要請
- 2013年12月19日 ルクセンブルク、「EU平和の子ども」活動参加、50万ユーロ支援。同日、同活動創設1周年
- 2013年12月19日 欧州委員会、中国・インド・ベトナム製ポリエステル短繊維に対して補助金調査実施を決定
- 2013年12月19-20日 欧州理事会、共通安保防衛政策の強化、成長・雇用対策、銀行・通貨同盟など協議
- 2013年12月20日 欧州委員会報道官、米英諜報機関のアルムニア副委員長への盗聴疑惑に対して非難の談話
- 2013年12月20日 レーン副委員長、S&P社がEUの信用格付をAAAからAA+に引下げたことに関して、反論の談話
- 2013年12月23日 EU理事会、中央アフリカ共和国への武器禁輸措置を実施。武器や傭兵・金融・技術支援含む
- 2013年12月27日 アシュトンEU上級代表、前日の安倍首相靖国神社参拝に対し、緊張高める行動慎むよう声明
- 2013年12月30日 2014年度欧州文化首都、リガ(ラトビア首都)とウメオ(スウェーデン)に決定

### 【編集後記】

今回のスカラシップ報告は、バルカン地域を、西欧からの表象・イメージという観点から捉えています。

第一次世界大戦からユーゴ紛争を経て「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれてきたバルカン地域に対し、現在のEUはこの地域の安定策を近隣政策の中でも最重視していると思います。

EU加盟という「アメ」は、昨年7月のクロアチア加盟に続き、セルビアなどに行われている加盟交渉で、EUの思惑通り、これらの国に地域安定を志向する動機を与えています。

さらにその延長線上で、バルカンという「様々な民族・文化・宗教が共生する地域」が、全体としてEUとの政治的・社会的関係を強めていけば、国内情勢が混迷の度合いを強めるウクライナ、民族問題を抱え西欧民主主義的な価値観が失われつつあるロシアに対する一定の歯止めともなるでしょう。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

皆様それぞれ良い年を迎えられましたでしょうか？今年もどうぞEUSIを宜しく  
お願い申し上げます。

ところで本年2014年は、EUにとってもおそらく今後を占う意味で激動の一年となるでしょう。その中でも大きな出来事となるのは、この秋に現行のバローゾ委員会が任期満了を迎えることと、5月に欧州議会選挙が行われることです。欧州委員長は欧州議会による承認を受ける必要があるため、欧州議会選挙での各党派の委員長候補がひとつのカギを握ることになるでしょう。またリスボン条約発効で新たに設置された2つの要職である欧州理事会常任議長と外交安全保障政策上級代表も、それぞれ満期を迎えます。その意味で、今後の統合を牽引するリーダーシップが今年大きく変わってゆく可能性があります。

経済面では、すでに1月1日よりラトビアが18カ国目のユーロ圏加盟国として参加を果たしました。また銀行同盟も、ECBによる単一銀行監督制度(SSM)が11月より正式に開始され、銀行破綻の単一処理制度(SRM)もこの一年で詳細が詰められてゆくことになると思います。

個別の加盟国では、9月にはスコットランドで独立をめぐる住民投票が予定されており、もし独立が決まった場合、EU加盟に向けて動いてゆくことになります。それ以外にも、3月と11月にはスロヴァキアとルーマニアで大統領選挙、4月・5月・9月にハンガリーとベルギーとスウェーデンで総選挙が予定されています。日本との関係では、日・EU間のEPAとSPA(戦略的パートナーシップ協定)交渉が引き続き行われてゆくでしょう。このように眺めてゆくと、まだまだ今年も目が離せない状況が続いてゆくと思いますが、我々EUSIが皆様にEUに関する様々な機会や成果を提供できるよう、この一年も努めて参りたいと思います。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: [info@eusi.jp](mailto:info@eusi.jp)

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: [info@eusi.jp](mailto:info@eusi.jp)

---